学校だより１１月号

令和６年１１月１日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

ＴＥＬ　048（548）1004
ＦＡＸ　048（547）1467
URL https://koya-e-konosu.edumap.jp/
e-mail　koya-e@city.konosu.ed.jp
毎月１９日は「食育の日」です

【学校教育目標】　夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成

読書は他人の声を聞くこと

校　長　棚澤　大輔

今年は１０月に入っても、夏日（最高気温が２５℃）が続き、更には真夏日（最高気温が３０℃）となるような暑い日もありましたが、少しずつ朝晩の涼しさとともに、昼間も過ごしやすい季節となってまいりました。季節の変わり目を感じる時季ですので、皆様体調にはお気を付けください。

さて、本校では毎年１０月に「思いやりキャンペーン」を行っております。今年度は１０月７日から１８日まで、代表委員さんや各学年の思いやり大使さんが中心となって、休み時間に思いやり宣言の呼びかけを行ってくれました。また、昇降口に思いやりコーナーを設置し、「心があたたかくなるような、やさしい言葉」として、言われてうれしかった言葉に関する話題をメッセージとして子どもたちがたくさん投稿していました。日頃からの意識づけとともに、日常の中にある心がポカポカするような言葉をみんなで共有していくことで、思いやりの心が小谷っ子にしみわたってほしいなと思いながらその取組を見守っていました。

心の成長ということで言えば、本を読むことも、豊かな心の育成に大いに寄与するものと言われています。１０月２７日からは「読書週間」も始まりました。本校でも、読書集会を図書委員会が中心となり開催したり、全校朝会の校長講話で取り上げたりして意識を高めているところです。また、毎年鴻巣市教育委員会や本校 PTA からの予算による新しい本の購入だけでなく、今年度は教職員からも各学年に本をプレゼントさせていただいたところです。そうした新たな本との出会いを、今年度の「こどもの読書週間」では「ひらいてワクワク　めくってドキドキ」という標語で表現しています。「この先の展開はどうなるのだろう？」とドキドキしてページをめくる感覚。「あれ？これってどういうことだっけ？そうだった！」とページを行ったり来たり開いてワクワクしながらなぞ解きをする感覚等・・・。そんな読書の思い出を皆さんもお持ちなのではないでしょうか。

昨年行われた学校読書量調査によると、小学４～６年生は本を１か月あたり１２．６冊読んでおり増加傾向にあるとの結果が出ていました。一方で、文化庁が今年調査した大人への読書習慣に関するアンケートでは、１か月に一冊も本を読まないと答えた人の割合は６２．６％にのぼったとの報告がありました。読書量が減っている理由として、「スマートフォンなどの情報機器で時間が取られる」が最も多くおよそ 44%。次いで「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」が、およそ 39%。さらに、今後読書量を増やしたいかという設問では、「余りそうは思わない」、「そうは思わない」と答えた人の割合があわせて 40.8%。こうした状況に警鐘を鳴らしている書評家の三宅 香帆氏は、「読書離れによって今は自分好みでないものを除去していく社会になっていると感じる。自分に関係がない、想像ができないものをどうやって受け入れたらいいのか考えられず、自分以外のものへの想像力がすごく減っていると危惧している。読書は他人の声を聞くことだと思う。」と語っています。

三宅氏の言葉を知って思い出したのは、夏休みの宿題で提出された本校児童の作文です。その児童は、読書を通して「誰もが何かしら悩みを抱えている」ということを知り、今までの自分を振り返り、もしかしたら相手にも悩みがあり、そうとは知らず相手と接する中で、自分がその悩みに関係していて相手に不快な思いをさせてしまったのではないかとの思いに至った、と述べていました。また、「本音で話せる友だちがいることの幸せ」という言葉に出会い、自分にもそうした友だちがいて幸せを感じる一方で、クラスの仲間が辛いことを一人で抱え込んでいたことを知り、自分はどんな行動をこれからとればよいのだろうと思いを巡らし行動にうつす様子が書かれていました。これこそ、三宅氏の述べていた「読書は他人の声を聞くこと」ということなのではないでしょうか。

「思いやりキャンペーン」がその時だけの取組とならぬよう、すべての教育活動の基盤に「他者を大切にする心の育成」を位置づけ取り組むものと認識しています。今回の読書週間もその一つ。本校は今後もあらゆる教育活動を通して、「夢・希望にあふれる　心豊かな児童の育成」を目指してまいります。引き続きご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。